

P8310792.JPG 2019/04/13

明治元年十月朔日(一日)より明治元年十月六日まで

P8310792right

来り、昨本(平産\*)の報あり、且駿行荷造りをなす、此方荷一箇夜具入葛籠差立をも頼む、  
墨邸

つた来り漬菜三把持来、同人を使用して松霞方へ炭六苞を贈る

二日巳 晴

太郎鍬(恵)三児を携、劇場一見、舟行して帰る、妻儀礫川へ産見物(舞)に行き、且

上総行の土産鶏卵を携へし旨、山本長礫姑等来りし旨、次郎儀永持方に誘われ遊歩に  
出し旨

三日午 晴

藤(山)隠居来る、帰田(願)届出旨也、前の内空介来り、昨日荷出し有し趣申聞る

四日未 晴本(雨)

P8310792left

此廻状により上屋敷書付(羅)日野根へ為持遣す、家族共上総表へ仮住居願書加(談)  
有し、墨邸門番来る、内山へ炭四俵為持遣す、前の内空介来る拾荷の荷才領を頼、且富沢  
叔母への書状を托しかる(舟)賃一円半を渡し遣す、且君塚より鮎二籠を贈らる

五日申 晴

昨日野根より談有し、家族共上総行願書同方へ為持遣す、渡辺伴方より明後日抱屋敷観定  
為取替の儀申来る、関本帰恩来り小品持来、屋代重(方)へ行く、先日中より両度来り

喃(\*1なん)に申聞し

積年の云々に付、不在有りしが一応申(す)、帰途礫川へ産賀並太郎同居頼(の)儀に付立よる

六日酉 陰乍晴

山本長来り産賀に付昨日鍬(児)を招、内山孝一時(の)謝に来り小品持来

\*1;喃(\*1なん) ぐらぐらしやべる

\*2;平産は安産の(ハ)ハ

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。